

新宿通信 NO. 50

令和元年 10 月 23 日
東京都立新宿高等学校
進路指導部

- センター出願状況
- 国公立大対策会報告
- 分野別模擬講義予告 (2 年)
- 科目選択の考え方

「私の核にあるもの」

数学科 日比野 智子

新宿高校に来て久しぶりに電車通勤となり、電車で本を読む日々が復活しました。その時々で読むものは変わりますが、電車で本がないと落ち着かないので大抵は長い文庫本、読み終わりそうな時はもう一冊鞆に入れていきます。新しい本を買って読むよりも、昔から愛読している本を読み返すことが多いかもしれません。

私は宮城県北の生まれ育ちで、自分の家の 2 件隣に祖父母の家があり、両親が共働きだったこともあって、放課後は祖父母の家に帰って過ごすのが日課でした。田舎家で敷地だけは広く、築百年の茅葺の母屋の隣に二階建ての離れがあり、その一部屋が本の部屋になっていました。祖母の妹が本屋に勤めていた縁で、世界文学全集、日本文学全集、美術全集、図鑑、辞典、また、叔父が集めていた『本の雑誌』などが創刊号からずらりと並んでいて、気が向いたものをパラパラめくってみたり、じっくり読むために持ち出したりしていたものです (今でも借りて読んだりしています)。小学生の頃学校から帰って祖父母の家に帰ると、よく祖父が文藝春秋を読んでいて、それも毎月一緒に読んでいました。その頃の自分に内容が理解できていたとは思えませんが、難しくても意外に面白く、高校卒業後に家を出るまで読み続けていました。

自分の家にも本がたくさんあって、今思えば両親は本当にたくさんの本を買ってくれました。ピアノをやっていたので音楽の本や楽譜、NHK のみんなのうた、絵本、かがくのとも、岩波文庫…。両親が本を読むことが好きで、それを私にも惜しみなく与えてくれたのだと思います。本当に感謝しています。

さて、そんな好きな本の一つに『赤毛のアン』のシリーズがあります。有名な本なのでご存知の方も多いと思いますが、このシリーズが実は 10 冊あるのは知っていますか？私は子供版で何度も読んでいましたが、シリーズ 10 冊を読み通したのは高校生の時でした。母がこの本をこよなく愛していて古い新潮文庫が家にあり、初めて子供版でないものを読んでみたら、あまりにも面白くてあっという間に読んでしまったのです。登場人物が生き生きとしていること、島の美しい描写、そして何より美しい日本語訳。すっかり魅了されてしまった私は、自分でも買い直し、今では暗記しているくらい読み返していますが、いつ、どの部分から読んでも感動が薄れることはありません。

実は、舞台になっている島の描写があまりにも美しく魅力的で、大学時代に 1 か月このプリンスエドワード島に行きました。乗り継ぎが 3 回もあり、到着まで 26 時間もかかる長旅でしたが、島の本当に美しいこと！もちろん作品の書かれた時代とは違い、島の人々は近代的な生活をしていますが、島の美しい自然や人柄はアン の時代とあまり変わらないのではないかと思う日々でした。私が滞在していた家庭は会社員の家族でしたが、隣は農家で馬や牛がたくさんいて、子供達は学校ではなく自宅で勉強していました。日曜日には皆で礼拝に行き家族で過ごす、そういったのんびりした暮らしの中で島での 1 か月を過ごしながら、私自身の育った田舎の生活と共通するものを感じて、自分の育ってきた環境に対する感謝と愛情を強く認識したのです。

今こうやって東京の真ん中で仕事をしながら、自分のコアな部分は田舎暮らしと本、そして家族や出会った人々に培われたもので出来ていると実感します。新宿高校は都会の真ん中で、物もたくさんあり、勉強も部活動も忙しいかもしれませんが、心のやわらかい今の時期に、自然の美しさに触れることや本を読むこと、自分以外の人との関わりをたくさん持って、豊かな人生を歩んで欲しいと思います。

本当は旅の話も音楽の話もしたいところですが、字数がないのでまたいつか！

○センター出願状況

317名のセンター試験志願票を発送し、まもなく大学入試センターから「確認はがき」の第一陣が届く頃です。

担任の先生から「確認はがき」をもらったら、氏名や住所、登録教科、受験科目数などを、志願票のコピーと照らし合わせて確認してください。訂正等が必要な場合は11月5日までに学校で一括して大学入試センターに「訂正届」を出さなければなりません。日程に余裕が無いので、すみやかに確認しましょう。また、受験教科や受験科目数の変更も今回に限り受け付けてもらえます。万が一訂正や修正が必要な場合は10月29日（火）までに担任の先生を通して申し出てください。問題がなければそのまま「確認はがき」を保管しておいてください。

○大学の願書について

数年前までは、主な私立大学の入学願書を学校で取り寄せて校内で配布していましたが、この数年でほとんどの私大がWeb出願方式に切り替えているため、紙の願書の配布は行いません（と言うより、できません）。各大学のHPに出願の方法が詳しく載っていますので、受験を考えているところのものは早めにチェックしてください。

一方、国公立大学では、Web出願と従来通りの紙の願書が混在しています。HPで確認のうえ、**願書は各自で入手**してください。願書の取り寄せについてはすでに配布している「テレメール願書請求カタログ」などを利用するとよいでしょう。センター試験の結果次第で受験する可能性の出る大学の願書は必ず事前に入手しておきましょう

う。また、国公立大学では後期日程も出願期間は前期日程と同時期です。

願書配布時期は各大学で異なるので必ずHPで確認しておきましょう。

○中間①考査に向けて

今週から中間①考査が始まります。今回は7月の考査後の授業が試験範囲になりますので、科目によっては夏休み前の授業が範囲に含まれます。復習しておきましょう。3年生は今回と12月の考査でおしまいになります。最終成績を左右する重要な考査です。しっかり準備して臨みましょう。

国公立大学入試対策会報告

去る9月28日、前期終業式の午後に3年生を対象とした「国公立大学入試対策会」がありました。河合塾新宿校の功刀氏の講演を聴くことができました。実践的なアドバイスも多く大変参考になりました。今年は、卒業生の都合がつかず、講師として来られませんでした。来年は現3年生の皆さんが講師となって母校の後輩に語りかけてください。

○分野別模擬講義（2年生 予告）

考査後の10月29日（火）午後、2年生を対象に「分野別模擬講義」が実施されます。各大学から先生をお招きし、それぞれの専門分野の授業を行っていただきます。しっかり聞いて今後の進路選択に活かしましょう。

講義一覧は次のページに掲載します。

詳細は教室掲示で確認してください。

参加校	参加講師名
早稲田大学	文化構想学部 教授 小沼 純一 先生
東京外国語大学	大学院総合国際学研究院 教授 鈴木 義一 先生
東京学芸大学	教育実践研究支援センター 准教授 大森 直樹 先生
一橋大学	法学研究科 准教授 柳 武史 先生
東京大学	情報理工学系研究科 特任教授 島 亜衣 先生
東京工業大学	環境・社会理工学院 准教授 竹村 次朗 先生
東京薬科大学	薬学部 薬理学教室 教授 田村 和広 先生
慶應義塾大学	経済学部 教授 藤田 康範 先生
千葉大学	看護学部 教授 岡田 忍 先生

そこで二つ目の話になるのですが、入試科目だけを意識したぎりぎりの選択をするのではなく、余裕をもった選択をしてほしいと思っています。そもそも皆さんは受験生である前に高校生であり、将来、社会人として生きていくうえで必要な知識を幅広く学ぶ必要があります。18歳からの選挙権も認められるようになっていきます。社会のさまざまなことに関心を持ち、貪欲に学ぶ姿勢を持ちましょう。

それは、巡りめぐって大学受験にもどってきます。これからの大学入試では既成の教科の垣根を越えた合教科的な問題が増えていきます。分野の異なる複数の資料を関連づけて読み解く能力は、幅広い知識と柔軟な思考力があって初めて可能になります。さまざまな教科・科目を学ぶ意義はそうしたところにあると思います。

○11月6日は模試の日

11月6日は模試の日です。1年生と2年生はベネッセの進研模試、3年生は駿台ベネッセマーク模試を受験します。どの学年の模試も今後を占う上で重要な模試です。前回の模試の結果を踏まえて対策を講じましょう。

○科目選択の考え方

2年生は、次年度の科目選択を決定する時期になっています。

科目を選ぶ際の一つの基準が大学入試科目です。自分の志望する大学の入試科目を調べ、それに対応できる科目選択をしましょう。河合塾の「栄冠めざして vol.2」を全員に配布しました。そこにすべての大学の受験科目が載っていますので参考にしてください。ただし、これは31年度、現3年生の入試の科目です。一年後、あるいは二年後に科目が変更になる可能性がなくはない（ありうる）ということも覚えておきましょう。

【今後の予定】

○センター確認はがき到着

※ 科目等修正の最後の機会

○後期中間①考査 10/24～29（3年は23～）

○第3回河合塾全統マーク模試 10/27(日)

(3年希望者)

○分野別模擬授業 2年 10/29(火) 午後

○実力テスト 11/6(水) (1、2、3年)

先輩からの言葉

裁判官の仕事

金築 誠志 (15回生)

元最高裁判事

70歳で最高裁判事を定年退官するまで、46年間、裁判官をやっていました。高校時代には、夢にも思わなかった職業人生でした。

皆さんは、裁判官というと、どんなイメージをお持ちでしょうか。「法律の権化」「謹厳実直」「清廉潔白」、そういったイメージを持つ人が多いかも

しれません。私が、実際の裁判官に会う前に抱いていたイメージも、そんなものだったと思います。知り合いに裁判官どころか、弁護士もいませんでしたし、どんな人種なのか、皆目見当もつかず、およそ自分に縁のある職業とは考えていませんでした。

そもそも、法学部に進学したことも、これという理由があったわけではありません。法律学は、「パンのための学問」という呼称もあって、面白くはないが、就職に有利そうだからという理由で選択するという人も少なくないようです。私の場合、そうした意識すらあったかどうか怪しく、文字通りなんとなくでした。ところが、2学年の後期になって法学部の講義が始まると、教養学部の講義にはない面白みを感じました。民法、刑法等の理論には、人類の長い歴史の中で磨き抜かれた叡智が含まれています。そうした精緻な理論に惹かれたこともあります。法律学の勉強を通じて、それまで知らなかった人間や世の中の様々な側面を知ることにも、深い興味を覚えました。

講義の際に、何人もの教授が口々に、法律を学ぶ以上、司法試験を受けるべきだとおっしゃっていました。専門的資格を持つのもよいと考え、受験することにし、幸い、合格したので、法曹の道に進むことにしました。

本物の裁判官に初めて会ったのは、司法修習生になったときです。民事裁判、刑事裁判の教官は、堅苦しいところはなく、熱意に溢れ、実に闊達で、私の裁判官に対するイメージは破られました。よく飲みを連れていってもらいましたし、自宅にも押し掛けました。こういう人たちの世界なら、自分にも務まりそうだ。そう思うに至り、勧められるままに判事補に任官しました。

任官して20年位までは、専ら刑事裁判を担当していました。私は、とくに正義感が強い方ではないと思っていますが、お年寄から言葉巧みに老後の生活資金を騙し取った被告人には、強い義憤を覚えましたし、とくに同情心に富む方でもありませんが、どうにもならない人間関係の軋轢の末に殺人を犯した事件では、自分も被告人と同じ状

況に置かれたら、同じことをしたかもしれないと思いました。

その後、民事に転向して、貸金等の金銭訴訟、不動産に関する事件、名誉毀損による損害賠償請求等、通常部で取り扱う事件のほか、破産部、商事部、保全部で、倒産事件、商事事件、保全事件を、専門的に担当しました。バブル経済の崩壊直後の時期で、事件数が急増し、難しい事件が沢山あって、苦勞もしましたが、様々な事件があって面白かった。とくに思い出が深いのは、オウム真理教の宗教法人としての解散命令を出した事件です。地下鉄サリン事件から間もない時期であったため、厳重な警備を受けながら、富士山麓の教団施設の検証をしたりしました。会社更生事件で倒産会社の再建計画を決めたり、株主代表訴訟で先例のない問題について判決をしたり、企業経営に密着した仕事をしたことも、印象に残っています。

裁判官になって良かったことは、様々な事件を担当する中で、人生勉強、社会勉強をさせてもらったことでしょう。そういう勉強を積み重ねることが、裁判官としての成長にとっても必要です。裁判官は、法律だけ知っていればよいというものではありません。大部分の事件で争われるのは、法律の解釈ではなく、事実認定だからです。人間や社会について、幅広く知って、実情を踏まえた認定をすることが重要です。したがって、裁判官には、どんな知識も無用ではない。その点も、この職業に就くことの幸せの一つでしょう。

どんな人が裁判官に適しているのでしょうか。法律家ですから、論理的思考が苦手では困りますし、望ましい資質を挙げればきりがありませんが、一番大事なのは、物事を公平に見て判断できる柔らかな心であると思います。人格的に、一定のタイプの方がふさわしいということはありません。実際にも、謹厳実直な人ばかりでなく、豪放磊落な人、冗談を言って周囲を笑わせてばかりいる人など、いろいろなタイプの裁判官がいますし、仕事の上にも個性が出ます。仕事に性別の差がないために、以前から女性比率が高い職業であることも付け加えておきましょう。